

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 12 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	0173800228		
法人名	合資会社 富川グロリアホーム		
事業所名	グループホーム 富川ヒカルホーム		
所在地	沙流郡日高町富川西2丁目9番3号 (電 話) 01456-2-2836		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年12月9日	評価確定日	平成22年2月18日

【情報提供票より】 (平成 21年 11月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	12人, 非常勤 9人, 常勤換算15.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000または40,000円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	有 (円) ・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1ヵ月12,000円または20,000円		

(4) 利用者の概要 (12月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	0 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	9 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 89.4 歳	最低	65 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富川駅前クリニック、日高町立門別国民健康保険病院、土井歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症高齢者の心身の特性、言動、行動を理解して、症状の緩和や身体機能の維持に役立てる園芸療法、タクティルケア等を積極的にケアサービスに取り入れ、介護度が高いですが、医療機関との連携を密に行ない、家族訪問も多く、ブログで公開するなど、家族、地域に発信を行ない、今年、建てた別棟「もてなしの家」を夏祭りの地域交流、利用者と共に家族が宿泊に利用するなどしており、今後も色々な場面に活用が期待でき、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることの出来るホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域のつきあい」については、別棟「もてなしの家」を建て地域交流の拠点として利用し、夏祭り、園芸療法等の行事の取り組みが行なわれ、「重度化・終末期」については重度化対応、終末期ケア等対応指針を提示して看取り介護についての同意書をいただきながら、その都度話し合いを行ない確認がされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、ユニット毎にミーティング時に項目毎、職員全員で討議検討し、気づき、改善点に繋げる取り組みを行ない責任者がシートに記入、管理者が纏め上げています。この機会を職員の気づき、改善に向けた取り組みに繋げています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヵ月に1回開催し、運営やケアサービスの報告はもとより、反省点、改善点などが話し合われ、活発な意見交換が行政や地域の方々の協力をいただきながら行なわれています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回ヒカルホーム通信が発行されています。利用者の充実した生活環境作りや支援に活かすため、家族の意見、要望が運営に反映されるよう、表出された内容について丁寧に検討協議を行ない対応しています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会清掃、花見への参加、富川グロリアホーム主催の敬老会に参加、踊り、月1回読み聞かせボランティア、ホームの夏祭りには、今年建てられた「もてなしの家」を利用して地域住民の方々との交流が行なわれるなど、ホーム内で地域との交流を促進しています。中学生、高校生の訪問、ヘルパー実習生受け入れ等ホーム内で多くの方々との交流が行なわれています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の地域密着型サービスの理念「一人ひとりの個性が大切にされて、毎日を生き活きと過ごすことができ、地域に密着しながら安心して暮らせるホーム」を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示して、ミーティング時には理念の唱和、利用者の状況に合わせた話し合いや、日々の支援の取り組み状況を考察し、管理者、職員間で常に意識しながら理念を共有しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会清掃、花見への参加、富川グロリアホーム主催の敬老会参加、踊り、月1回の読み聞かせボランティア、ホームの夏祭りには、今年建てられた「もてなしの家」を利用して地域住民の方々との交流を行ない、中学生、高校生の訪問、ヘルパー実習生受け入れ等ホーム内で多くの方々との交流が行なわれています。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティング時に全員で話し合いを持ちながら取り組み、責任者、管理者が纏めあげ、職員の気づき、振り返りに役立てています。		

日高町 グループホーム 富川ヒカルホーム

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1回行ない、報告や反省、地域の問題やホームでの検討事項など、今後に向けて改善点等も話し合うなどの取り組みをしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者と、案件について意見を仰ぐために行政の窓口に出向いたり、電話相談などをしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ユニット毎に家族便りを送付しています。家族の訪問時には、利用者の生活の様子や心身の状況を報告し、月1回は、遠方の家族も訪問していただく関係が来ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族からの意見や要望を集めています。また、機会を捉えて話し合える関係作りに努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は比較的少なく、職員全員でケアの一貫性とダメージ緩和の取り組みを行なっています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	豊浦町のグループホームへの1日の見学研修、北海道グループホーム協議会などのネットワークをベースにした外部研修を中心として、積極的な受講が行なわれています。働きながら勉強する内部研修の機会も確保しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会へ加入し、ネットワーク内での交流や連携を図っています。ブログの公開、勉強会、豊浦町のグループホームへの1日見学研修が行なわれています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の見学やできる限り利用者同伴の見学を勧め、短時間でもホームで過ごし馴染んでいただけるよう、家族の協力をいただきながら支援しています。デイサービスを利用しながら、顔見知りとなって安心感を持てただける配慮もしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ることはしていただき、利用者との生活場面の共有の中で喜怒哀楽に関心を寄せ、針仕事、洗濯たたみなどをしていただき、月2回の音楽療法を取り入れて、思いを共感して支え合う、安心の出来る関係作り、一人ひとりの状況に合わせながら、共に過ごせる時間が築かれています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを大切にしながら、センター方式を使い、利用者の情報の把握に努めています。	○	利用者の思いや意向をさらに把握するための、生活歴等の情報を蓄積し、職員間で共有するよう期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を取り入れ、ミーティング時に利用者の状況に即した支援策を検討しています。利用者、家族の意見や意向を取り入れた利用者本位の介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングでの職員間の意見交換や3ヵ月に一度のモニタリングを行ない、介護計画の見直しが行なわれていますが、見直し時の検討内容の表記が十分ではなく、介護計画と日々の記録の連動性も十分とはいえません。	○	計画、実践、評価の流れで、日々の日誌の中で、計画に連動した記録を行なうことと、モニタリングや見直し時の検討内容の適切な記録を今後期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物や専門病院受診、外出支援、「もてなしの家」を利用し用途に合わせた支援、利用者や家族の意向や希望にできるだけ沿えるよう柔軟に支援しています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から週1回の定期往診、訪問看護の随時訪問、急変時等の受診支援を確保しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化対応、終末期ケア等対応指針について話し合いを行ない、看取り介護についての同意書をいただき、家族、主治医とも相談、意思確認を行ないながら、重度化、終末期の支援が行なわれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、自然なさりげない対応がされており、職員のプライバシーを尊重した姿勢が見られ、記録等も記載方法に留意しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしており、日々のゆったりした暮らしの中で、個別性の気づきを感じながら支援されています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と話し合い、食材の買出し、畑の収穫物も献立に入れながら、利用者の能力に合わせた支援が行なわれています。行事食や外食、食事に変化をつけて楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回入浴が可能で、利用者は最低でも2回、希望に合わせた入浴の支援が行なわれています、入浴の声かけも利用者一人ひとりに応じて工夫されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが、役割を持つことを大切にしています。手芸、貼り絵など、担当者が毎月行事予定を立て、園芸療法、手作りうどん、そば、ケーキ作り等の出来る範囲で一緒に行ない、楽しみ、買物、散歩など、希望に添った支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日行なわれています。利用者の希望を取り入れたドライブや名所めぐり、買物なども利用者の楽しみごとの一つとなるよう配慮され支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの利用者への弊害を理解し、夜間帯のみ防犯上の理由で玄関を施錠しています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下で、年2回の避難訓練が行なわれています。夜間想定の実施には、近隣の方々も参加していただいています。運営推進会議を通じて働きかけも行なわれています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に合わせた食事が提供され、一人ひとりに合わせた支援がされています。水分摂取についてはユニットにより摂取量の記録に違いがあり十分に把握できているとはいえません。	○	毎日の水分摂取量の把握は職員の共有が必要と考えます。また、食事の献立についても栄養士のアドバイスをいただくことを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングにはテーブルセットのほかソファを配置し、団欒の場や一人で過ごす場所も確保され、利用者本位の工夫がされています。季節感を醸し出す装飾や利用者手作りの作品や思い出の写真を掲示して、ソフト面での温もりを演出しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの物品や家具が持ち込まれ、安心して過ごせるよう家族にも協力をいただいています。利用者の心身の状況に応じて使い勝手のよい収納や配置を支援し、居心地の良い工夫がされています。		

※ は、重点項目。